

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2023/06/15

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	34.70	0.02
JPY/THB	0.2477	0.0003
USD/JPY	140.09	-0.13
EUR/THB	37.61	0.18
EUR/USD	1.0830	0.0037
USD/CNH	7.174	-0.001
SGD/THB	25.87	0.04
AUD/THB	23.59	0.12
USD/INR	82.11	-0.27
USD Index	102.95	-0.39

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.298	0.008
10Y (THB)	2.582	0.014
5Y (USD)	3.989	-0.002
10Y (USD)	3.786	-0.027

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,955.3	10.7
WTI (Oil)	68.27	-1.15
Copper	8,509.0	49.0

Stock

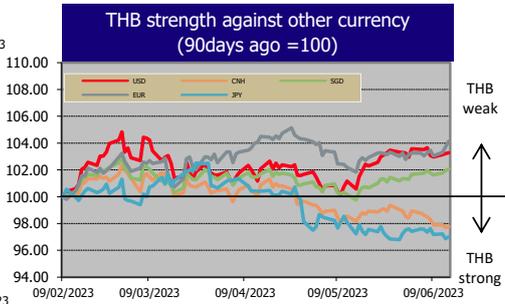
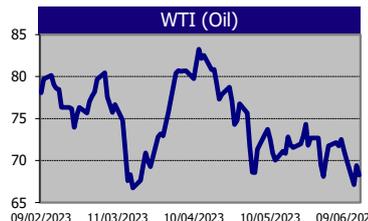
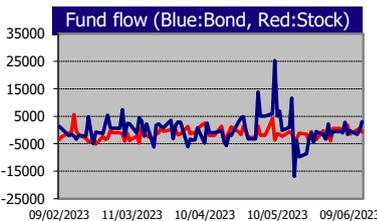
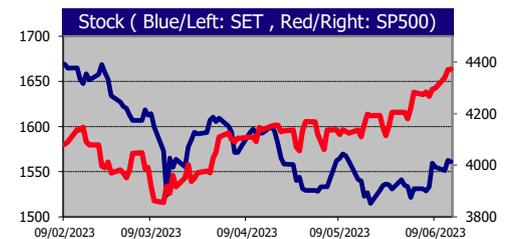
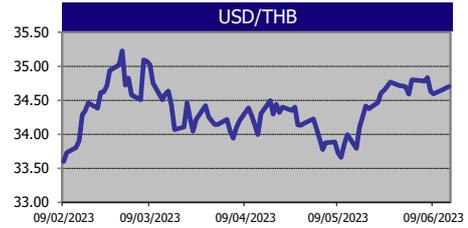
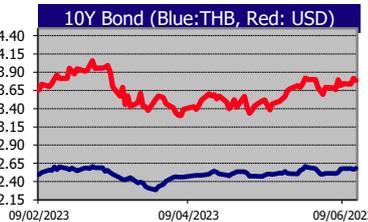
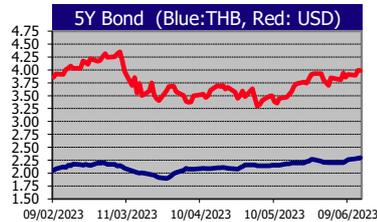
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,561.15	-1.25
NIKKEI (JP)	33,502.42	483.77
DOW (US)	33,979.33	-232.79
S&P500 (US)	4,372.59	3.58
SHCOMP (CN)	3,228.99	-4.68
DAX(GER)	16,310.79	80.11

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(758)	-1350.6
Bond net flow	3,022	2816.8

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは海外時間に上下するも、水準は変わらず、34.70台前半付近で取引を開始。バンコク時間午前中、タイ中銀によるアナリスト会合が開催され、当局者から政策金利は「まだ中立水準ではない」とし、タカ派な姿勢が示されたものの、海外時間にFOMCを控えていることもあってか、ドルパーツの値動きは限定的に、以降も同水準での推移が続いた。海外時間に入ると、米5月PPIが市場予想を下回っていることが確認され、米インフレ減速が意識されると、ドルパーツは小幅に下落。その後、注目されたFOMCでは市場予想通り政策金利は据え置きとなったものの、ドットチャートでは年内2回の追加利上げの可能性が示され、ドル買いで反応。ドルパーツは一時34.70台後半まで上昇した。ただ、その後のパウエル議長の会見において、「今回決定は今回だけのもの」、「次回会合がどうなるかを含め、今後に関して決めることはなかった」等の発言が見られ、年内2回の追加利上げの実現可能性について懐疑的な見方も出た中、ドルパーツは徐々に勢いを失い、終盤にかけてやや値を戻し、34.70レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は下に往ってこいの展開。140円台前半で取引を開始。前週に示現した水準ではあるものの、滞空時間の短かった140円台ということもあり、ドル売りが相応に見られたが、日経平均株価の堅調な推移もあってか、同レベル付近での推移が継続。海外時間に入ると、予想を下回る米5月PPIに一時139円台前半まで下落する場面を見せるも、FOMCにて年内2回の追加利上げが示唆されると140円台前半まで値を戻した。その後、パウエル議長の会見内容を受け、再び139円台前半付近までドルが売られる展開となったものの、終盤にかけては再度140円台に戻し、結局140.09レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

6月FOMCでは全会一致で金利据え置きが決定されました。米経済はFRBの想定以上に堅調であるものの、直近約1年において急速な金融引き締めを行ってきたため、次のアクションを取る前に様々な情報をもとに慎重に検討したいということが決定の理由となっています。金利の据え置きまでは市場予想通りでしたが、同時に更新された金利見通しについては、2023年末の金利見通しが5.125%から5.625%へと0.50%(2回分の利上げに相当)も引き上げられており、これに伴って2024年末および2025年末の見通しも上方改定されました。一方で、市場参加者の見通しには大きな変化無く、依然として年内の利下げを見ているという隔たりがあります。この隔たりに加えて、元々7月FOMCでの利上げを織り込んでいるために想定以上のタカ派内容だったFOMCにもかかわらず、昨日は米10年債利回りが終値ベースでは低下、米株がまちまちで引けている理由だと思えます。市場参加者はパウエル議長会見における「データ次第、会合毎に判断」という発言を受けて、今後方針の修正も十分にあり得ると踏んでいるようです。そのため、次回7月FOMCまでに強い経済指標が続くようであれば、FRBの見通しに合わせるようにドル高が進みやすい展開には注意したいところです。(鈴木)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.